

経営理念	<p>【学校教育目標】 自ら学び行動し、自分・他者・地域を愛する子供を育てる (目指す児童像)○主体的に学び、行動できる子 ○自分・他者・地域と対話ができる子 ○多様な見方・考え方、深い学びができる子 (目指す学校像)○あたたかく楽しい学校 ○活力にあふれた学校 ○地域に開かれた学校 (目指す教師像)○子供を大切に、保護者と共に歩む教師 ○教育公務員として自覚をもって取り組む教師 ○互いのよさを認め合い、協力して取り組む教師</p> <p>【学校経営目標】 夜須中学校区一貫教育の推進に向けて～ 系統性・継続性・適時性のある教育実践と地域の信頼にこたえる学校づくり～</p>
------	--

【評価規準】 A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
		評価	達成状況	評価	考察	
学力の定着と向上	①全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査、標準学力調査(2回目)において、全国平均並みの学力を目指す。	B	全国学力・学習状況調査(平均正答率全国比・県比) 6年国(+6.2・+5)、算(+5・+4)、理(-1.1~-3) 高知県学力定着状況調査(平均正答率全国比・県比) 4年国(+4.8・+7.3)、算(+10.4・+9.1)、5年国(+1.8・+0.8)、算(+11.3・+9.0)、理(-2.6~-2.2) 標準学力調査(2回目)(平均正答率全国比) 1年国(+5.2)、算(+1.7)、2年国(+2.8)、算(+2.0)、3年国(-6.5)、算(-7.8)、6年国(-1.4)、算(+0.2) ・3年国・算以外は、全国・県平均以上または平均並み。3年はインフルエンザで未受検の児童が数名いたことも影響している。授業改善や帯タイム学習、加力指導等の成果が表れてきていると考える。	B	全国平均以上または平均並みであり、授業改善等の成果が見られている。	<ul style="list-style-type: none"> 算数科を中心に児童主体の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指し授業改善を進めていく。また、一人一台端末の効果的な活用場面を増やしていく。 昼の帯タイムやチャレンジタイム、放課後の加力指導を継続・充実させていく。
	②「授業に主体的に参加している」の肯定的評価95%以上	B	「授業に主体的に参加している」:肯定的評価 94.3%(強肯定 59%) ・まだまだ教師主導の授業が多いので、授業の中で、児童に委ねる場面を計画的に設定し、更に児童主体の授業に変えていく必要がある。	B	更なる児童主体の授業を目指し、取組を行い、強肯定70%を目指してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で児童に委ねる場面を計画的に設定し、児童主体の授業にしていく。
	③「授業で協力したり、話し合ったりする活動をよくしている」の肯定的評価 90%以上	A	「授業で協力したり、話し合ったりする活動をよくしている」:肯定的評価 96.7%(強肯定 70.5%) ・ペアやグループでの活動を授業に取り入れることができている。	A	96.7%はすばらしいと思う。	<ul style="list-style-type: none"> 児童に委ねる場面を増やすことで、自発的な話し合いや協力をする場面を増やしていく。
豊かな心の育成	①「自分にはよいところがある」肯定的回答90%以上	A	「自分にはよいところがある」:肯定的回答 87.7% 「あなたは、まわりの人の役に立っていると思いますか」:肯定的回答 88.5% ・振り返りをする事で自分の頑張りに目を向けられるようになった。 ・異学年交流や異校種交流をすることで児童は達成感や自己有用感を感じられているのではないかと。	A	どちらも達成できている。	<ul style="list-style-type: none"> 教員が肯定的評価や声掛けを意識して指導していくとともに、個々の活躍の場を設定していく。 振り返りの場を継続して設定していく。 異学年交流や異校種交流を行った際には感謝の気持ちを伝える場を設定する。
	②「授業中に自分の思いや考えを安心して言える」肯定的回答90%以上	B	「授業中に自分の思いや考えを安心して言える」:肯定的回答 84.4% ・相手意識をもって聞く力や話す力が弱い。	B	授業を見せていただいたが、どの学年も自分の思いを出し合い、授業に向き合っていた。	<ul style="list-style-type: none"> 間違いを生かした授業展開を意識するとともに、さまざまな場面で、人は一人一人違っているのが当たり前という意識を育てていく。 友達の話最後まで聞く、反応を返す、端的に話す、分かりやすく話すなどを意識して指導する。 ペアやグループ活動は引き続き取り入れていく。
	④「あなたは、先生や友達にほめられたり認められたりすることがありますか」の肯定的回答90%以上	A	「あなたは、先生や友達にほめられたり認められたりすることがありますか」:肯定的回答 87.7% ・自己評価だけでなく、児童や教員などから他者評価を受けることで自分のよさに気付く場面があった。	A	達成できている。さらに自己肯定感をあげてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 教員による肯定的評価や児童同士の相互評価の場面を多く設定していく。 学級会やYASUプロを計画的に実施し、一人一人の活躍の場を設定していく。

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		評価	達成状況	評価	考察		
体力の向上と健康・安全への理解	①「体育の授業が好き」…1～6年生 強肯定75%以上	①「体育の授業が好き」…1～6年生 強肯定を70%以上を目指す。	A	「体育の授業が好き」:1～6年生 肯定的回答 94%(強肯定 77%) ・各担任が体育の学習で目指す姿や育てる力を明確にした授業を実施している。 ・休み時間には外で遊ぶ児童が多く、運動が好きな児童が多い。	A	この数値はすばらしいと思う。	・さまざまな運動ができるようになる体育授業になるように、ICTの活用や児童同士の関わりを多く設定していく。 ・休み時間や放課後等の外遊びの時間が増えるように働きかけていく。
	②スポーツテストの判定A・B・C層…75%以上	②新体力テストの判定ABC層…3学期までに75%以上を目指す。	C	新体力テストの判定ABC層:3学期 男子73.8%、女子46.3%、全体54.6% ※結果は8種目中3種目のみの実施だったため、正確な判定はできなかった。 ・女子の体力・運動能力向上を図る必要がある。	B	正確な判定ができなかったこともあったが、体力・運動能力は向上していると感じる。 取組の成果を伸び率で見てもいいのではないかと。運動会等を見てもC評価とは感じない。	・運動する機会を増やし、運動習慣をつける取り組みをしていく。 ・課題のある種目に限らず、全校で統一した運動の取り決めが必要である。
	③「朝からすっきりチャレンジ」(年間3回)の早寝・早起きの項目を向上させる。(3学期の結果で早寝・早起きともに75%以上達成)	③「朝からすっきりチャレンジ」(年間3回)の早寝・早起きの項目を向上させる。(3学期の結果で早寝は73%以上、早起きは70%以上達成を目指す。)	A	「朝からすっきりチャレンジ」の早寝・早起きの項目 3学期の結果:早寝74%、早起き76% ・保健指導と「朝からすっきりチャレンジ」をセットで行い、生活習慣改善の意識を育ててきたが、課題が固定化している児童がいる。	A	達成できている。 固定化している児童へは、引き続き配慮しながら意識を育てていってほしい。	・保健指導と「朝からすっきりチャレンジ」をセットで行うとともに、養護教諭と学級担任が連携し課題のある家庭への啓発を行っていく。
信頼される学校づくり	①不登校の予防と支援・いじめ防止 新規不登校による長期欠席児童(30日以上)を0名	①不登校の予防と支援・いじめ防止 新規不登校による長期欠席児童(30日以上)を0名	C	不登校の予防と支援・いじめ防止 新規不登校による長期欠席児童(30日以上):1名 ・SC、SSWと連携して支援している。	B	目標値(0)も高いのではないかと。対応はできている。引き続き家庭に寄り添い、SC・SSWと連携し、支援をしていってほしい。小中合同での支援会もやっていくとよい。	・遅刻や欠席の状況を確認し、初期の段階での対応を強化する。SCやSSWだけでなく、地域の民生委員・児童委員、主任児童委員等とも連携をしていく。 ・支援会を定期的に開催していく。
	②働き方改革の推進・不祥事の防止 全教職員による毎月の勤務時間外の在庁時間45時間未満及び不祥事の発生件数0	②毎月の勤務時間外の在庁時間45時間未満の達成率80%以上及び不祥事の発生件数0	A	毎月の勤務時間外の在庁時間45時間未満:達成率87.9%(4～1月平均) 不祥事の発生件数:0 ・不祥事防止研修は4月から計画的に実施できた。	A	すばらしい成果だと思う。	・計画的、効率的に業務を行っていく。 ・計画的に不祥事防止研修を実施する。
	③安全教育(防災) 「地震時に自分で判断して身の安全を守る」家・建物の中・外とも85%以上	③安全教育(防災) 「地震時に自分で判断して身の安全を守る」家・建物の中85%以上、外80%以上	A	「地震時に自分で判断して身の安全を守る」: 家・建物の中 96%、外 95% ・避難訓練:地震2回、火災1回、小中合同引渡し訓練1回・園小中合同地震避難訓練2回、起震車体験(1・3・5年)、教職員の不審者対応訓練1回実施できた。訓練等とおして児童は自信をつけている。	A	訓練の積み重ねの成果だと思う。	・さまざまな場面、状況を想定しての訓練を計画、実施していく。 ・弾道ミサイル発射対応訓練を実施する。 ・園小中合同の引き渡し訓練を行う。
	④ICTの効果的な活用 毎日、全児童がタブレットを使用した学習の実施	④ICTの効果的な活用 全児童がタブレットを使用した学習を毎日実施	B	全児童がタブレットを使用した学習を毎日実施:1・2・3・4・6年○、5年△ ・5年は2日に1回程度の使用になっている。	B	ほぼ達成と言ってよいのではないかと。効果的な活用に取り組んでほしい。	・一人一台端末の効果的な活用について研究し、活用場面を増やしていく。
	⑤こども園・小の円滑な連携・接続 充実に向けた研修及び交流を年間10回以上	⑤こども園・小の円滑な連携・接続 充実に向けた研修及び交流を年間10回以上	A	こども園・小連携・充実に向けた研修及び交流:年間11回(研修4回、交流活動1年5回、5年2回) ・園と小の研修に相互に参加しあえた。 ・交流活動はつき組園児と1年、5年で計画的に実施できた。	A	計画的に実践されている。 中学校との連携もお願いする。	・計画的に交流活動を実施していく。 ・園、小相互に研修参加の機会を作っていく。